令和4年度

学校評価報告書

坂井市立鳴鹿小学校

〒910－0336　福井県坂井市丸岡町楽間４－40
TEL(0776)66－2756　http://www.naruka.ed.jp

目　　次

スクールプラン　……　Ｐ１

学校評価年間計画　……　Ｐ２

学校評価スケジュール　……　Ｐ３

学校評価　（成果と課題、改善策・向上策）　……　Ｐ４～９

学校関係者評価　……　Ｐ１０・１１

学校関係者評価委員名列　……　Ｐ１２

その他資料（　「校長室だより」　）　……　Ｐ１３・１４

令和4年度 坂井市立鳴鹿小学校 スクールプラン

保護者の願い

・元気にあいさつができる子
・優しく思いやりのある子
・自分で考えて行動する子
・自然を大切にする子

教育目標 心もからだも健康で、すすんで学ぶ、心豊かな児童を育てる

めざす児童像 すすんで学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子

教師の願い

・素直で思いやりのある子
・進んでがんばる子
・良さを認められる子

―背筋を伸ばして、主体的に―

確かな学力の確立

〈重点目標〉

◎各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、主体的、対話的で深い学びを実現する授業に取り組む

○自主的自発的な読書活動を充実させる

〈具体的な取組〉

○「鳴鹿っ子授業の8つの約束」を確実に定着させ、基礎的基本的な学習内容を身に付けさせる
○各教科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を鍛える指導に取り組む
○自ら学習課題や学習活動を選択するなど、興味・関心を生かした自主的自発的な学習に取り組む
・知識を関連させ理解したり、情報を精査し考えたり、問題を見つけ解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする学習に取り組む
○情報手段を活用するための環境を整え、それらを適切に活用した学習活動に取り組む
○ユネスコスクールとして、ESDの視点ですべての教育活動に取り組む
○総合的な学習の時間「まほろば学習」の中で SDGsの達成を目標に、自分にできることに誠実に取り組む態度を養う
○学校図書館を計画的に利用し、自主的自発的な学習活動や読書活動を充実させ、家庭における読書を推進する
・読書環境を充実させ、読み聞かせ、おはなし会を定期開催する

〈数値目標〉

※「授業がわかる」児童 90%
※家庭学習の習慣化 90%
※8つの約束を守っている 85%
※読書が好きな児童 75%

豊かな人間性の育成

〈重点目標〉

◎質の高い多様な指導方法を確立し、考え議論する道徳授業を実践する

○よりよい生活をつくる話合い活動を中心に特別活動に取り組む

〈具体的な取組〉

○道徳科読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習など、多様な指導方法に取り組む
・問題意識をもたせ、自分との関わりで考えさせる授業に取り組む
・多面的、多角的に捉え、自己の生き方を考えさせる授業に取り組む
○思いやりのある子、礼儀正しい子を育成する
・いじめを根絶するために人権教育を推進し、自分を大切にするとともに、他の人も大切にする態度を育てる。
・心を磨く清掃活動、無言清掃に取り組ませる
・挨拶、返事、丁寧な言葉遣いを定着させる
○特別活動を通して自己肯定感を高め、信頼し合える、魅力ある学校づくりに取り組む
・安心して自分の考えを伝えることができ、間違いや失敗を支え合う学級づくりを目指す
・一人一人のちがいを認め、互いに信頼し合って生活することの大切さを体得させる
・認め、褒め、励ます指導を心掛ける

〈数値目標〉

※思いやりのある言動85%
※無言清掃活動 90%
※自分の考えを伝える85%
※挨拶、返事、言葉遣い 90%

健やかな体の育成

〈重点目標〉

◎疾病、傷害を防止し、健康で安全な生活の向上を目指す
◎運動やスポーツの多様な楽しさ、喜びを体感させる指導に取り組む

〈具体的な取組〉

○疾病等リスクの軽減と生活の質の向上、健康を支える環境づくりに取り組む
・保健指導を充実させ感染症予防を徹底する
・食育を推進し健康な身体づくりに取り組む
○運動が好きな子を育成し、体力づくりに取り組む
・パワーアップタイムを通して体力向上を図る
○休み時間の遊びと運動を奨励する
○規則正しい生活習慣を身に付けさせる
・「歯っぴー・ここからチェック」を活用し早寝早起きを習慣化させる
・自立心を育成する
・「スマートルール」を活用し、ネット、携帯、ゲーム機等の使い方を指導する
・目の使い過ぎに気を付け、休ませることを常に意識する習慣を身に付けさせる
○防災や安全に対する意識を向上させる
・避難訓練や登下校の交通安全指導を徹底する

〈数値目標〉

※保健指導の充実 95%
※業間マラソンのめあて達成 80%
※早寝早起き習慣化 80%
※スマートルールを守れた 80%

家庭・地域との連携

〈重点目標〉

◎地域に誇りをもつ児童を育成する

○家庭や地域と連携し地域人材を積極的に活用する
○積極的な情報発信に取り組む

〈具体的な取組〉

○地域で進める体験活動を推進する
・地域や学校に誇りをもつ児童を育成する
・地域人材や施設を積極的に活用する
・地域に出かけ、地域の方に接する活動に取り組む
○学校・家庭・地域の連携を図る
・ノーメディアデー、スマートルールを着実に定着させ、実践を通して情報モラルを身に付けさせる
・学校生活ボランティアの協力を積極的に要請し連携を深める
○幼小、小中連携教育に積極的に取り組む
・中学校区、鳴鹿幼保園と密接に連携する
○積極的な情報発信に努める
・お便りとHPで定期的に情報を発信し、学校開放に取り組む
○安心・安全な学校づくりに取り組む
・地域と協力し見守り活動を強化していく

〈数値目標〉

※地域、学校が好き 90%
※地域人材、施設の活用 90%
※ノーメディア、スマートルール効果 70%
※情報発信 90%

◎「一手少ない指導」を心掛け、背筋を伸ばして主体的に取り組む子を育てる◎

<業務改善のための取組>少ない指導で大きな成果を上げる・時間に対する意識・学校業務を組織で取り組む・休暇取得しやすい環境整備

〈学校評価年間計画〉

坂井市立鳴鹿小学校

月	評価活動等	備　考
3月	R　前年度学校評価の考察 児童、保護者、地域住民の意見・要望の把握 学校内外の環境調査	
4月	P　学校経営方針の策定（教育目標、重点目標、具体的取組み） スクールプランの作成 学校評価総合シートの作成	校内評価委員会
5月	◇学校経営方針等の保護者等への説明（スクールプラン）	
6月	D　学校運営・教育活動	地域・学校協議会
7月	C　教師による行事、学習活動等に対する記述式アンケート（実施毎に） A　改善策の策定	
8月		
9月		
10月		
11月	D　学校運営・教育活動	地域・学校協議会
12月	C　自己評価の実施 ・教職員、児童、保護者アンケート	校内評価委員会
1月	A　改善策の策定　学校評価書の作成	校内評価委員会
2月	C・A　学校関係者評価の実施 学校関係者評価書の作成	地域・学校協議会 校内評価委員会
3月	自己評価、学校関係者評価の結果、改善策の公表 自己評価、学校関係者評価の市教委への報告	
4月	次年度へ	

令和4年度　学校評価のスケジュール　　鳴鹿小学校

スクールプランの作成・公表（4月）

愛育会総会資料で公開
「校長室だより」、HPによる公表
6月「まほろば協議会」で説明

↓

学校評価総合シートの作成
（5月）

↓

地域・学校協議会「まほろば協議会」
学校評価の在り方協議（11月）

↓

教職員・児童・保護者アンケートの作成
校内評価委員会（11月）

↓

アンケートの実施・集計・分析
（学校評価集計表）
校内評価委員会（1月）

2学期中に実施・回収し、冬季休業に集計・分析の作業を行う。→学校評価集計表にデータ入力
〈アンケート実施予定〉
保護者用：12月5日（月）～12日（月）
児童用：12月5日（月）～15日（木）
職員用：12月5日（月）～15日（木）
〈分析〉
1月校内評価委員会（分析と改善策案の作成分担）

↓

学校評価書の作成（改善策）
校内評価委員会（2月）

↓

地域・学校協議会「まほろば協議会」
自己評価の検証・学校関係者評価書の作成（2月）

自己評価、学校関係者評価の結果、改善策を公表　→印刷した物を配布、「校長室だより」
学校評価書・学校関係者評価書の市教委への報告

↓

次年度へ

令和4年度　学校評価集計表

◇成果　○改善策

項目	重点目標	具体的な取り組み	判断基準	指標	目標値	マネジメントリーダー	回答者	整理番号	前年度		人数	割合	A＋B	成果又は改善策
確かな学力の確立	○◎各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、主体的、対話的で深い学びを実現する授業に取り組む 自主的自発的な読書活動を充実させる	○「鳴鹿っ子授業の8つの約束」を確実に定着させ、基礎的基本的な学習内容を身に付けさせる★8つの約束を守っている（数値目標）	★授業の8つの約束を	満足度指数	★85%	向井	児童①	1	90%	計	82		93%	◇年度初め、月初めに確認をした。月ごとにふり返りを実施し、徹底できた。掲示物も活用し、児童が意識できるようにした。 ○来年度は更に、年度初めに全校に担当がオリエンテーションをする。
			A　よく守れた。							A	22	27%		
			B　だいたい守れた。							B	54	66%		
			C　あまり守れなかった。							C	5	6%		
			D　ほとんど守れなかった。							D	1	1%		
			基礎学力の定着を	成果指標	90%	向井	教職員①	2	100%	計	9		100%	◇プリント学習、パワーアップテストの実施、個別指導を行った。学力テストの分析会を行い、弱いところを補充するなどした。
			A　十分に図ることができた。							A	3	33%		
			B　おおむね図ることができた。							B	6	67%		
			C　あまり図ることができなかった。							C	0	0%		
			D　図ることができなかった。							D	0	0%		
		○各教科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を育成する指導に取り組む	各教科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を育成する指導に	取組指標	90%	向井	教職員②	3	89%	計	9		100%	○新学習指導要領に基づいた指導に関する研修を行う。 ○「見る目」を育てるために、「はてな学習」を進めている。
			A　意識して十分に取り組めた。							A	5	56%		
			B　意識しながら取り組めた。							B	4	44%		
			C　意識はあるがあまり取り組めなかった。							C	0	0%		
			D　ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		○自ら学習課題や学習活動を選択するなど、興味・関心を生かした自主的自発的な学習に取り組む	興味・関心を生かした自主的自発的な学習に	取組指標	90%	向井	教職員③	4	89%	計	8		100%	◇年度当初に「学習の進め方」を配付し、自主学習の取り組み方を教えた。
			A　意識して十分に取り組めた。							A	4	50%		
			B　意識しながら取り組めた。							B	4	50%		
			C　意識はあるがあまり取り組めなかった。							C	0	0%		
			D　ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		・知識を関連させ理解したり、情報を精査し考えたり、問題を見つけ解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする学習に取り組む	深い学びにつながるような学習に	取組指標	90%	向井	教職員④	5	100%	計	9		100%	◇校内で一人一授業公開し、全員で主体的で対話的、深い学びにつながる授業研究を進めた。
			A　意識して十分に取り組めた。							A	3	33%		
			B　意識して取り組めた。							B	6	67%		
			C　意識はあるがあまり取めなかった。							C	0	0%		
			D　ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		○情報手段を活用するための環境を整え、それらを適切に活用した学習活動に取り組む	ICT機器を適切に活用した学習に	取組指標	90%	宮嶋・佐藤	教職員⑤	6	100%	計	9		100%	◇校内研修を定期的にもつことで、教員のICT機器活用能力を高めることができた。 ○引き続き校内研修を行い、ICT機器を扱うための授業ではなく、適切に活用した授業に取り組んでいけるようにする。
			A　意識して十分に取り組めた。							A	5	56%		
			B　意識しながら取り組めた。							B	4	44%		
			C　意識はあるがあまり取り組めなかった。							C	0	0%		
			D　ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		○ユネスコスクールとして、ESDの視点ですべての教育活動 に取り組む	ESDの視点ですべての教育活動に	取組指標	90%	佐藤・川治	教職員⑥	7		計	9		89%	○年度当初に担当が現職教育を行い、周知徹底する。前学年の活動について情報共有していく。
			A　意識して十分に取り組めた。							A	3	33%		
			B　意識しながら取り組めた。							B	5	56%		
			C　意識はあるがあまり取り組めなかった。							C	1	11%		
			D　ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		○総合的な学習の時間「まほろば学習」の中でSDGsの達成を目標に、自分にできることに誠実に取り組む態度を養う	SDGsの達成を目標に、自分にできることに誠実に取り組む態度を養う「まほろば学習」に	取組指標	90%	佐藤・川治	教職員⑦	8	100%	計	7		100%	○総合的な学習の時間以外にも、SDGsのマグネットを活用し、常に意識できるようにする。「自分たちは何をしていくのか」という行動の主体となって自分ごととして受け止め、考え、行動をさせていく。
			A　意識して十分に取り組めた。							A	2	29%		
			B　意識しながら取り組めた。							B	5	71%		
			C　意識はあるがあまり取り組めなかった。							C	0	0%		
			D　ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		○学校図書館を計画的に利用し、自主的自発的な学習活動や読書活動を充実させ、家庭における読書を推進する	お子様は家庭で本を	成果指標	80%	西田	保護者①	9	51%	計	82		55%	○保護者に関心を持ってもらうため、月に1冊家から持ってくる（一緒に選書、一緒に購入などできると更によい）（学年に応じて） ○「読書カード」は全校一斉曜日ではなくなっても継続する。親子読書も継続
			A　よく読むようになった。							A	18	22%		
			B　読むようになった。							B	27	33%		
			C　あまり読むようにならない。							C	28	34%		
			D　ほとんど読むようにならない。							D	9	11%		
		・読書環境を充実させ、読み聞かせ、おはなし会を定期開催する　★読書が好きな児童（数値目標）	★本を読むことが	満足度指数	★75%	西田	児童②	10	82%	計	82		84%	○週末読書や自分で決めた曜日の読書などを継続し、「読書カード」に記入していく。
			A　とても好きだ。							A	39	48%		
			B　どちらかというと好きだ。							B	30	37%		
			C　あまり好きではない。							C	12	15%		
			D　好きではない。							D	1	1%		
		★「授業がわかる」児童（数値目標）	★授業は	成果指標	★90%	向井	児童③	11	96%	計	82		94%	◇ICTの活用、特にタブレットの活用で理解するのに役立っている。また、大型テレビで教材等を映すことで、より見やすく分かりやすくなっている。 ◇UD化（視覚化、焦点化、共有化）に努め、全員が分かる授業作りをした。
			A　よくわかる。							A	37	45%		
			B　だいたいわかる。							B	40	49%		
			C　あまりわからない。							C	5	6%		
			D　全くわからない。							D	0	0%		
		★家庭学習の習慣化（数値目標）	★毎日の宿題を	満足度指数	★90%	向井	児童④	12	98%	計	82		98%	◇家庭の協力が大きい。低学年からの積み重ねが大きく、習慣化している。 ◇年度当初に「家庭学習の進め方」に従って、オリエンテーションを行った。
			A　欠かさず行うことができた。							A	54	66%		
			B　だいたい行うことができた。							B	26	32%		
			C　あまり行うことができなかった。							C	2	2%		
			D　ほとんど行うことができなかった。							D	0	0%		

項目	重点目標	具体的な取り組み	判断基準	指標	目標値	マネジメントリーダー	回答者	整理番号	前年度		人数	割合	A＋B	成果又は改善策
豊かな人間性の育成	◎質の高い多様な指導方法を確立し、考え議論する道徳授業を実践する ○よりよい生活をつくる話合い活動を中心に特別活動に取り組む	○道徳科読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習など、多様な指導方法に取り組む	道徳科授業では多様な指導方法に	取組指標	90%	向井	教職員⑧	13	86%	計	7		100%	◇昨年度までの道徳研究を財産に、多様な指導法で授業を行った。
			A 意識して十分に取り組めた。							A	2	29%		
			B 意識しながら取り組めた。							B	5	71%		
			C 意識はあるがあまり取り組めなかった。							C	0	0%		
			D ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		・問題意識を持たせ、自分との関わりで考えさせる授業に取り組む	問題意識を持たせ、自分との関わりで考えさせる道徳科授業に	取組指標	90%	向井	教職員⑨	14	100%	計	7		100%	◇道徳ノートやワークシートを活用し、自分との関わりで考える時間を確保している。
			A 意識して十分に取り組めた。							A	4	57%		
			B 意識しながら取り組めた。							B	3	43%		
			C 意識はあるがあまり取り組めなかった。							C	0	0%		
			D ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		・多面的、多角的に捉え、自己の生き方を考えさせる授業に取り組む	多面的、多角的に捉え、自己の生き方を考えさせる道徳科授業に	取組指標	90%	向井	教職員⑩	15	86%	計	7		100%	○複数の資料を準備する等、いろいろな角度から価値に迫れるようにする。事前に児童の反応を予想しておき、資料の準備をしたり、切り返しの発問を考えたりして授業に臨むようにする。 ◇日常生活に関連づけて、考えさせるようにしている。
			A 意識して十分に取り組めた。							A	3	43%		
			B 意識しながら取り組めた。							B	4	57%		
			C 意識はあるがあまり取り組めなかった。							C	0	0%		
			D ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		○思いやりのある子、礼儀正しい子を育成する ★思いやりのある言動（数値目標）	★相手のことを考え、思いやりのある言動が	満足度指数	★85%	川治	児童⑤	16	82%	計	82		84%	◇休み時間等、互いに接触をしないように気をつけながらの生活が続いている。引き続き「思いやりの木」や道徳の授業で意識づけを図っていく。 ○スマートルールの遵守について、児童・保護者両者の意識が低くなっている。メディアに触れている時間が多くなるにつれ、友達や学習への我慢も短くなっているように感じる。家庭への啓蒙が必要である。
			A よくできた。							A	33	40%		
			B だいたいできた。							B	36	44%		
			C あまりできなかった。							C	13	16%		
			D ほとんどできなかった。							D	0	0%		
		・いじめを根絶するために人権教育を推進し、自分を大切にするとともに、他の人も大切にする態度を育てる。	人権教育を推進し、自分を大切にするとともに、他の人も大切にする態度を育てることが	成果指標	90%	堤	教職員⑪	17	100%	計	10		100%	◇いじめの事案はなかった。命の大切さやいじめについては敏感に感じ取り、子どもたちの意識が高くなっていると感じている。 ○今後も各学年で人権についての話をしたり、全校でしあわせの森に取り組ませることにより、児童の人権についての意識を高めたい。
			A よくできた。							A	6	60%		
			B だいたいできた。							B	4	40%		
			C あまりできなかった。							C	0	0%		
			D ほとんどできなかった。							D	0	0%		
		・心を磨く清掃活動―無言清掃に取り組ませる★無言清掃活動（数値目標）	★口を閉じて一生懸命掃除が	満足度指数	★90%	堤	児童⑥	18	82%	計	82		89%	○清掃には熱心に取り組んでいるが、無言清掃の取組が緩んでいる。集合と終わるときに静かにするため、放送を工夫する。掃除の終わりに、1．2と一呼吸取る放送を加える。がんばっている子を表彰したり、放送で名前を発表したりする。ご褒美シールの見直し、評価を厳しくする。
			A いつもできた。							A	42	51%		
			B だいたいできた。							B	31	38%		
			C あまりできなかった。							C	8	10%		
			D ほとんどできなかった。							D	1	1%		
		・挨拶、返事、丁寧な言葉遣いを定着させる★挨拶、返事、言葉遣い（数値目標）	★あいさつ、返事、ていねいな言葉遣いが	満足度指数	★90%	川治	児童⑦	19	92%	計	82		94%	○ますます発表や挨拶の声は小さくなっている。児童はやっているつもりでも、マスク着用のせいか、声はだんだん小さくなっている。音楽の授業や朝の歌などの声を出す場面はコロナ前に戻りつつある。日中は、声を出さず会釈を奨励していく。
			A いつもできた。							A	28	34%		
			B だいたいできた。							B	49	60%		
			C あまりできなかった。							C	4	5%		
			D ほとんどできなかった。							D	1	1%		
		○特別活動を通して自己肯定感を高め信頼し合える、魅力ある学校づくりに取り組む	特別活動を通して自己肯定感を高め信頼し合える、魅力ある学校づくりに	取組指標	90%	佐藤・宮嶋	教職員⑫	20	100%	計	8		100%	◇昨年度より、縦割り活動が増え、交流が多くできている。また、それらの活動を楽しみ、子どもたちの満足感が増している。クラブ・委員会・特別活動（パワーアップデーなど）でも、児童主体の活動を心がけた。
			A 十分に取り組めた。							A	6	75%		
			B まあまあ取り組めた。							B	2	25%		
			C あまり取めなかった。							C	0	0%		
			D ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		・安心して自分の考えを伝えることができ、間違いや失敗を支え合う学級づくりを目指す★自分の考えを伝える（数値目標）	★安心して自分の考えを伝えることが	満足度指数	★85%	佐藤・宮嶋	児童⑧	21	83%	計	82		87%	◇温かい学級の雰囲気を作る。また、今年度より取り組み始めたポジティブ教育を中心にSOSの出し方を教えたり、ソーシャルスキルトレーニングを行って、時と場合に応じて、発言したりできるようにする。
			A いつもできた。							A	27	33%		
			B だいたいできた。							B	44	54%		
			C あまりできなかった。							C	8	10%		
			D ほとんどできなかった。							D	3	4%		
		・一人一人のちがいを認め、互いに信頼し合って生活することの大切さを体得させる	一人一人のちがいを認め、互いに信頼し合って生活することの大切さを	取組指標	90%	佐藤・宮嶋	教職員⑬	22	100%	計	8		100%	◇ポジティブ教育や道徳の授業で学んだことを生かして、学校、クラスの行事への参加の姿勢を教えたり、ふり返りをさせたりできた。
			A 十分に体得させた。							A	4	50%		
			B 体得させた。							B	4	50%		
			C あまり体得させなかった。							C	0	0%		
			D ほとんど体得させなかった。							D	0	0%		
		・認め、褒め、励ます指導を心がける	認め、褒め、励ます指導を	取組指標	90%	佐藤・宮嶋	教職員⑭	23	100%	計	10		100%	◇高学年を中心にカウンセラーと1対1で面談を行い、話をしたり、顔を覚えてもらうことができた。次年度は、全学年で行えるとよい。全校集会の態度など、全教職員で児童のよいところを伝え合い、みんなで認め、褒め、励ます指導ができた。
			A 十分に心がけた。							A	7	70%		
			B おおむね心がけた。							B	3	30%		
			C あまり心がけなかった。							C	0	0%		
			D ほとんど心がけなかった。							D	0	0%		

項目	重点目標	具体的な取り組み	判断基準	指標	目標値	マネジメントリーダー	回答者	整理番号	前年度		人数	割合	A＋B	成果又は改善策
健やかな体の育成	◎疾病、傷害を防止し、健康で安全な生活の向上を目指す ○運動やスポーツの多様な楽しさ、喜びを体感させる指導に取り組む	○疾病等リスクの軽減と生活の質の向上、健康を支える環境づくりに取り組む ・保健指導を充実させ感染症予防を徹底する★保健指導の充実（数値目標）	★保健指導を充実させ感染症予防を	成果指標	95%	西田・田中	教職員⑮	24	100%	計	9		100%	◇感染状況を確認しながら、状況にあわせて実施できた。また、学級担任の学級での指導と集団での全体指導を関連づけながら行うことができた。また換気の呼びかけなども意識的に出来ていた。
			A 十分に徹底できた。							A	5	56%		
			B ある程度徹底できた。							B	4	44%		
			C あまり徹底できなかった。							C	0	0%		
			D ほとんど徹底できなかった。							D	0	0%		
			学校での感染症予防対策に対して	成果指標	95%	西田・田中	保護者②	25	95%	計	82		98%	◇手指消毒やマスクだけでなく、換気の呼びかけもできた。 ○昨年度に引き続き感染対策を継続し、保護者にも学校で行う具体的な感染対策を伝えていく。
			A 十分だと思う。							A	53	65%		
			B ある程度十分だと思う。							B	27	33%		
			C 少し不足していると思う。							C	2	2%		
			D 不足していると思う。							D	0	0%		
		・食育を推進し健康な身体づくりに取り組む	給食の時間や授業などで食育の指導に	取組指標	80%	片山	教職員⑯	26	100%	計	7		100%	◇毎月の給食目標の掲示やふり返りを行った。次年度も、このような活動を中心に、食育の指導に継続して取り組んでいく。
			A 十分に取り組めた。							A	4	57%		
			B ある程度取り組めた。							B	3	43%		
			C あまり取り組めなかった。							C	0	0%		
			D ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		○運動が好きな子を育成し、体力づくりに取り組む ・パワーアップタイムを通して体力向上を図る ★業間マラソンのめあて達成（数値目標）	パワーアップタイムの時間は、	取組指標	80%	宮嶋	教職員⑰	27	100%	計	9		89%	◇雨天時には、大縄の代わりに、短縄に取り組むなど、感染症対策をしながら、年間通して実施することができた。 ○次年度は、なわとびについても、学年に応じて種目を変えたり、カードを用意して、意欲付けを行いたい。
			A 年間を通して、児童の活動を十分に支援できた。							A	5	56%		
			B 児童の活動をおおむね支援できた。							B	3	33%		
			C 児童の活動をあまり支援できなかった。							C	1	11%		
			D 児童の活動をほとんど支援できなかった。							D	0	0%		
			★パワーアップのマラソンでは、 ※（ ）内は5・6年	満足度指数	★80%	宮嶋	児童⑨	28	96%	計	82		96%	◇雨天時には、大縄の代わりに、短縄に取り組むなど、感染症対策をしながら、年間通して実施することができた。
			A 校庭を5（4）周以上走っている。							A	53	65%		
			B 校庭を4（3）周走っている。							B	26	32%		
			C 校庭を1～3（2）周走っている。							C	3	4%		
			D ほとんど走らなかった。							D	0	0%		
		○休み時間の遊びと運動を奨励する	朝の活動前や昼休みに運動することが	満足度指数	80%	宮嶋	児童⑩	29	91%	計	82		88%	◇グラウンドや体育館、太陽の広場などを利用して、運動することができた。引き続き、運動を呼びかけると共に、可能な限り、外遊びを推奨していく。
			A よくできた。							A	40	49%		
			B だいたいできた。							B	32	39%		
			C あまりできなかった。							C	10	12%		
			D ほとんどできなかった。							D	0	0%		
		○規則正しい生活習慣を身に付けさせる	規則正しい生活習慣について	取組指標	80%	川治	教職員⑱	30	100%	計	8		100%	◇各担任が基本的生活習慣を基礎として重要視してくれているので、児童の様子も落ち着いている。 ○「鳴鹿っ子授業8つの約束」を常に意識させ、声かけを行っていく。
			A 定期的に指導できた。							A	5	63%		
			B ほぼ定期的に指導できた。							B	3	38%		
			C あまり指導できなかった。							C	0	0%		
			D ほとんど指導できなかった。							D	0	0%		
		・「歯っぴー・ここからチェック」を活用し早寝早起きを習慣化させる ★早寝早起きの習慣化	1年を通して、早寝早起きが	満足度指数	★80%	西田・田中	児童⑪	31	88%	計	82		78%	○歯っぴー・ここからチェックを活用し、統計データをアウトプットして、全校に知らせていく。また早寝、早起き習慣を各月１週間つくる。
			A いつもできている。							A	23	28%		
			B だいたいできている。							B	41	50%		
			C あまりできていない。							C	16	20%		
			D ほとんどできていない。							D	2	2%		
		・自立心を育成する	自立心の育成について	取組指標	80%	川治	教職員⑲	32	100%	計	9		100%	◇学年の発達段階に応じて、自立心を持つように指導している。係や委員会、まほろば学習発表会・委員会の発表やパワーアップデーでの自主性を尊重した取組が実を結んでいる。
			A いつも意識して取り組み、伸長が見られた。							A	3	33%		
			B 意識して取り組めた。							B	6	67%		
			C あまり意識して取り組めなかった。							C	0	0%		
			D ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		・「スマートルール」を活用し、ネット、携帯、ゲーム機等の使い方を指導する ★スマートルールを守れた（数値目標）	★ノーメディアデーやスマートルールを	満足度指数	★80%	川治	児童⑫	33	84%	計	81		79%	○児童は概ね守っていると思っているが、保護者の目から見ると守られていない傾向は続いている。 ○家庭への啓蒙も加味して、早寝(早起き)の推進を図ったり、専門家(校医など)から保護者向けにその影響を講義してもらうなどの機会を検討したりする。
			A よく守れた。							A	33	41%		
			B だいたい守れた。							B	31	38%		
			C あまり守れなかった。							C	15	19%		
			D ほとんど守れなかった。							D	2	2%		
		・目の使い過ぎに気を付け、休ませることを常に意識する習慣を身に付けさせる	目の使いすぎ(ゲームのやり過ぎ)に注意し、目のリフレッシュタイムをしっかり行うことが	満足度指数	80%	西田・田中	児童⑬	34	87%	計	82		79%	○掃除後に放送「目のリフレッシュタイム」を取り入れ、実施回数を増やし、目を休めることを意識させていく。またノーメデイアと連動し、保護者の啓発は継続的に行っていく。
			A よくできた。							A	39	48%		
			B だいたいできた。							B	26	32%		
			C あまりできなかった。							C	16	20%		
			D ほとんどできなかった。							D	1	1%		
		○防災や安全に対する意識を向上させる	防災や安全について	取組指標	100%	教頭	教職員⑳	35	100%	計	9		100%	◇定期的な安全点検で、必要な箇所の修繕など、進めることができた。 ◇防災に関わり、全校に災害時の非常食を配布し、家庭での防災に対する意識を高めた。
			A 定期的に指導できた。							A	6	67%		
			B ほぼ定期的に指導できた。							B	3	33%		
			C あまり指導できなかった。							C	0	0%		
			D ほとんど指導できなかった。							D	0	0%		
		・避難訓練や登下校の交通安全指導を徹底する	避難訓練や登下校の交通安全指導を	取組指標	100%	教頭・川治	教職員㉑	36	100%	計	10		100%	◇年3回の実施。水害の避難訓練も毎年扱うこととなり回数が増えた。業間の短い時間で実施できた。 ○訓練は、時間・設定など、年々変化・工夫をしながら行い、様々な場面で考えた行動ができるように計画をしていく。
			A 十分に徹底できた。							A	7	70%		
			B ある程度徹底できた。							B	3	30%		
			C あまり徹底できなかった。							C	0	0%		
			D ほとんど徹底できなかった。							D	0	0%		

項目	重点目標	具体的な取り組み	判断基準	指標	目標値	マネジメントリーダー	回答者	整理番号	前年度		人数	割合	A＋B	成果又は改善策
家庭・地域との連携	◎地域に誇りを持つ児童を育成する ○家庭や地域と連携し地域人材を積極的に活用する ○積極的な情報発信に取り組む	○地域で進める体験活動を推進する ・地域や学校に誇りをもつ児童を育成する ★地域、学校が好き（数値目標）	★鳴鹿地区、鳴鹿小学校が	満足度指数	★90%	佐藤・川治	児童⑭	37	95%	計	82		94%	◇コロナ下において、可能な限り実施できたが、5年生は米づくり・6年生はそば打ちなどでコミセンでお世話になっているが、1～4年生でも直接コミセンの方とふれあう体験を増やせるとよい。1～6年生においても、ふり返りをしっかりと行い、教師もしっかりと伝えていく。
			A とても好きだ。							A	54	66%		
			B どちらかというと好きだ。							B	23	28%		
			C あまり好きではない。							C	3	4%		
			D 好きではない。							D	2	2%		
		・地域人材や施設を積極的に活用する	地域人材や施設等の積極的な活用に	取組指標	90%	佐藤・川治	教職員㉒	38	88%	計	9		89%	○地域にどのような人材がいるかが、異動してきた教員はわからないので、活用しにくいので、地域の人材をリストアップできるとよい。
			A 十分に取り組めた。							A	5	56%		
			B おおむね取り組めた。							B	3	33%		
			C あまり取り組めなかった。							C	1	11%		
			D ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		・地域に出かけ、地域の方に接する活動に取り組む	地域に出かけ、地域の方に接する活動に	取組指標	90%	佐藤・川治	教職員㉓	39	71%	計	9		89%	○ウィズコロナの時代に移行しつつある中、感染対策をしっかりと行いながら、より地域とつながる活動を行う。そのための費用も確保する。逆に、見守り隊結団式やありがとう集会などで地域の方と接する機会を増やせるとよい。
			A 十分に取り組めた。							A	4	44%		
			B おおむね取り組めた。							B	4	44%		
			C あまり取り組めなかった。							C	1	11%		
			D ほとんど取り組めなかった。							D	0	0%		
		○学校・家庭・地域の連携を図る ・ノーメディアデー、スマートルールを着実に定着させ、実践を通して情報モラルを身に付けさせる ★ノーメディア、スマートルール効果（数値目標）	★お子様はノーメディアデーやスマートルールを	取組指標	★70%	川治	保護者③	40	53%	計	81		62%	○㉝と比較すると、児童の意識と大きな差がある。長期休業に備えてタブレットの扱いを学校で練習していることもあり、児童の危機感が緩んでいる面がある。操作とともにモラルの学習にも力を入れていく。 ○家庭への啓蒙も加味して、早寝(早起き)の推進を図ったり、専門家(校医など)から保護者向けにその影響を講義してもらうなどの機会を検討したい。
			A よく守れていた。							A	20	25%		
			B だいたい守れていた。							B	30	37%		
			C あまり守れていなかった。							C	24	30%		
			D ほとんど守れていなかった。							D	7	9%		
		・学校生活ボランティアの協力を積極的に要請し連携を深める	学校生活ボランティアを	取組指標	80%	教頭	教職員㉔	41	100%	計	10		100%	○学習支援（家庭科のミシンなど）で、非常に効果が上がった。そうしたかたちのボランティア募集もお願いしていく。 ○子どもたちから、感謝の気持ちを伝えられるとよい。（読書月間など）
			A 十分活用している。							A	6	60%		
			B おおむね活用している。							B	4	40%		
			C あまり活用していない。							C	0	0%		
			D ほとんど活用していない。							D	0	0%		
		○幼小、小中連携教育に積極的に取り組む ・中学校区、鳴鹿幼保園と密接に連携する	保幼小連携や小中連携に	成果指標	80%	頭向井・山田教	教職員㉕	42	80%	計	8		88%	◇コロナ禍で、集合型ではやれないこともあったので、小小連携においてオンラインで交流ができたのは、よかった。
			A 十分に取り組み、成果があると感じる。							A	2	25%		
			B 取り組み、ある程度成果があると感じる。							B	5	63%		
			C 取り組んだが、あまり成果はないと感じる。							C	0	0%		
			D ほとんど取り組めなかった。							D	1	13%		
		○積極的な情報発信に努める ・お便りとHPで定期的に情報を発信し、学校開放に取り組む ★情報発信（数値目標）	★お便りやホームページなどで情報発信が	取組指標	★90%	宮嶋・佐藤	教職員㉖	43	90%	計	8		100%	○学年便りや保護者会など機会を見つけて宣伝する。連絡帳や帰りの会で児童を通じて、保護者に伝える。手間は増えるが、給食便りや保健便り、ブログをアップしたことをメールで伝える。（リンクを貼って）
			A 積極的にできた。							A	5	63%		
			B おおむね計画的にできた。							B	3	38%		
			C あまりできなかった。							C	0	0%		
			D 全くできなかった。							D	0	0%		
		○安心・安全な学校づくりに取り組む ・地域と協力し見守り活動を強化していく	学校の交通安全指導、防災・防犯教育や危機管理に対して	満足度指数	90%	教頭・川治	保護者④	44	95%	計	82		98%	◇地域の見守り隊の方に、メール登録をしていただいた。 ○害獣が出て緊急下校となった場合なども配信を行い、協力をお願いしていく。
			A とても満足している。							A	34	41%		
			B ある程度満足している。							B	46	56%		
			C あまり満足していない。							C	1	1%		
			D 全く満足していない。							D	1	1%		

令和4年度　学校評価記述回答（教職員）の検討

内容	記述回答意見	対応・改善策
生徒指導	・学校の遊びのルール（太陽の広場の使い方も含む）、中階段の通り方ルール、その他暗黙の了解的なルールになっているところを、明文化し、共通理解が図れるようにするとよい。	・学校の遊びのルール、中階段の通り方ルールなどを明文化する。
	・コロナとの共存がだいぶ進んでいることも、考えて、次年度からは、玄関までの健康チェックはなくてもいいのではないかと思う。担当の先生が毎日、朝、早く来る必要もなくなる。（担当全員が早く来れるとは限らない） ・下校のシステムが現行通りで行うなら、下校時のチェックも生徒指導だけではなく、曜日ごとに担当を決め、その担当者が責任を持って、その曜日・時間（低・高）を担当するようにするとよい。これが、他の先生の負担になるのなら、地区ごとに教室を出るシステムを変更するとよいと思う。コロナ禍前はどうだったのか？	・健康チェックは感染症予防のためにも話す練習のためにも続けていく。 ・人数が少なくなって、1、2年の下校で一人になることが考えられる。 ・下校については、生徒指導の先生の担任する学年によっても変わっていくが、担当を決めてもよい。教室で待機している児童が見れないので、低、中、高で一人は教室を見るなどの対応も必要になる。
	給食のエプロンの持ち帰りを1週間ごとにしたらどうか。鳴鹿小や坂井市は、毎日が普通かもしれないが、1週間ごとだと、月曜日にエプロンを忘れても、次の日やその次の日には大抵持ってきている。日替わりで交代だとそれが難しい。学級の人数が減ってきていて、当番を曜日で割り振られなくなってきている。	・1週間ごとの持ち帰りとする。給食当番は、日ごとにするか1週間にするかはクラスの実状に合わせて決める。
学習	・研究でユニバーサルデザインの視点を入れるといいと思う。黒板に余計な掲示物を貼らない。視覚支援など。また、研究授業でタブレットなどを使った授業を明記するとよい。多少の強制力がないと使うようにならないと思う。授業でいかに使っていくか、使えるかを全校で研究・取り組んでいくとよい。1年目はいろいろ試してみる時期、2年目以降は、本当に使える使い方を模索していくのがいいと思う。	・ユニバーサルデザインの視点を入れて、意識して行っていく。
	・クラブ・委員会を月1回とし、残りの火曜日6限はカット。教材研究や研修の時間とする。自分の子どもの小学校（福井市清明小）は、コロナ禍以降、クラブを実施していない。クラブを楽しみにしている児童もいるが、5校時下校で放課後の遊ぶ時間を確保してあげる方が児童のためにとってもいいと思う。 ・児童数が減ってきているので、委員会を統合して、1つくらい減らすとよい（例：生活と放送を合わせる。エコと給食を合わせるなど）同様に、縦割班も6班から4班にするとよいのではないか。ただ、1班が20人強となり、集まる場所・部屋が限られる。	・クラブを月1回とする。遊びがちになるので、異学年で協力し、共通の興味・関心を追究する集団活動の計画を立てて運営することに自主的、実践的に取り組む形を考えていく。 ・放送委員会をなくし、7つの委員会から6つの委員会にする。
	・学校集会の時、1，2時間目を40分授業にしているが、学習を保証すると言う意味でも、45分授業に戻したらどうか。チャイムで授業を始めることを伝えているのは、授業時間の確保のためだと思うので、授業の時間を確保してほしい。また、教員側も学校集会を15分と決めて、その中で時間内に納める工夫をする。無理なら、学校集会がある日だけ、朝読書(朝学習）を削る。	・学校集会の時は、読書タイムをなくして朝一番に集会を行い、1．2時間目の授業45分を確保する。
	・プール管理であるが、まず、夏季休業中のプール開放は教員・学校の仕事なのか？1学期中の水泳指導としての補習で夏休みに水泳指導ならわかるが、午後のプール開放には疑問が残る。福井市はシルバー人材センターなどに委託してる。一教員レベルで決められることではないが、そのような意見があることは伝えて言ってほしい。 ・プール関係で言えば、学期中のプール管理が体育主任一人ですることは大変負担である。鯖江市、越前市では夏季休業中はもちろん、学期中のプール管理も職員で回していた。プール管理は、前日直か開け日直が担当した。やはり、一人に仕事が集中するシステムは改めた方がよい。	・学期中のプール管理は、体育主任の仕事の負担軽減と担任の先生はクラスを見る必要性から、教務が行う。
	・各教科の予算を割り振っていただけると、使うときに目途が立てやすい。欲しいものはたくさんあるので、どんどんお願いすると申し訳ない気がする。	・消耗費を各教科で割振り、年度末に調整する。
行事□	・コロナを機に減らす・なくすものと、継続する・元に戻す行事・内容を今一度、精選するとよい。	
	〈まほろばフェスティバル〉 ・1年生は、人数も少なく、45分は難しかった。ある程度時間を持たないといけないので、劇、クイズ、感想発表と3つ準備した。時間を掛ければ、いくらでもできるが、本来の教育課程を大事にしたい。すぐ後に、幼保園との交流会もある。保護者が見る場合や人を招くときは、ある程度準備が必要になる。1年生は、発表内容にもよるが、20分程度で良いと思う。	・各学年で時間を決めてもらえば良い。余った時間は振り返りなどを行い、時間を調整する。
	（スキー教室） ・今、他校でもなくなっている学校が増えている。坂井市からの指導員派遣も今年度から廃止になり、指導者・ボランティアの確保が難しくなってきている。教員もスキー未経験者やボード派の増加している。また、児童の安全面を考えると、コースアウトやけがの事を考えると、正直、指導が怖い。年1回のこともあり、教員側の指導力不足も今後考えられる。そして、会計や準備などが複雑で大変。雑務に見合う効果があるか。スキー教室を実施しても、次につながらない。保護者の金銭的負担が大きい（ウェア・レンタルスキー・リフト代など）。よって、発展的に解消していくといい。（5・6年のみで実施。4年・5年のみで実施。R5年度は、5・6年、R6年度から廃止など）	・学校だけでは決められないところもあるので、まほろば協議会や保護者アンケートで、地域の方や保護者の意見をもとに考えていく。
その他	（終礼） ・教職員の教材研究等時間の確保のため、終礼を週3回（火水木）にする。月・金は年休を取りやすいようにする。（本当はなくてもよい。予定は、各自見ればわかる。連絡事項は終礼簿に書き込む。あるいは、スカイメニューの電子掲示板に教職員連絡板という枠を作り、そこに入力するようにする。これだと、印刷しなくてもいいし、各教室でも確認できる。もちろん見ていないという人が現れるかもしれないが、そのようにすると決めれば、慣れていくと思う。） ・終礼は、終礼簿に記載すれば、毎日開く必要はないのではないか。	・教職員の教材研究等時間の確保のため、終礼を週2回（火、木）にする。連絡事項は係の者が終礼があってもなくても終礼簿に書き込む。
	（現職教育） ・現職教育は大切だと思いますが大きな行事の週や直前は避け分散して入れていただけるとありがたいです。またそれ以外の会議などでも同じ週の月金のどちらかの放課後は空けてもらえるとありがたいです。	・できるだけ現職教育、会議などは分散して入れるようにする。
	・学年の文書フォルダがあるとよい。起案した学年のおたよりや学年で取り組んだ行事の連絡文書をそれに閉じて、次年度以降すぐに見れるようにする。もちろんデータでも残すが、データは自分のUSBに保存したままの場合があるので、紙媒体でもあるとよい。	・学年の文書フォルダを作り、次年度に引き継ぐ。
	・年間計画について、今年は職員会議で12月に提示があったため、全体の場で確認したり意見したりすることができてよかった。次年度以降も、そのようにお願いできるとよいと思う。	・次年度の年間計画については職員会議で提示し、確認したり意見したりする場を設ける。
	・学校ブログを見てもらえるように、周知するとよい。	・学年便りや保護者会などで、見てもらえるように周知する。

令和4年度　学校評価記述回答（保護者）の検討

◇：検討協議（簡単に結論が出ないものは、分科会で検討し校長・教頭の指導を受ける）　〇改善案

内容	記述回答意見	対応・改善策
生活習慣 ・ノーゲム等 ・校則	・ノーメディアデーを作るのは賛成ですが、曜日の決め方は家庭ごとに事情が異なると思うので家庭ごとに設けるようにできたら良いと思います。 ・ノーメディアデーについて各家庭で実施する曜日を任せても良いのでは？と思います。また、ノーメディアがストレスになる時もあるように感じます。	・ノーメディアデーの曜日の決め方は各家庭に任せる。体温チェック表に、ノーメディアデーの日と読書の欄を設ける。
	・くつ下の色を黒や紺も認めてほしい。坂井市内の小学校でも認めている学校が多いようです。	南中と統一して、白、黒にする。ただし、式については白にする。

令和４年度　まほろば協議会　学校関係者評価

（辰川センター長）
・豆腐作りの体験は今まであったのか。
〇以前にも行っていた年もありました。今回は、国語や総合の学習として、地域と進める活動の補助金を使って行いました。

（大谷鳴鹿明章スポーツ少年団）
・今年、小小連携を行ったみたいですが、昔はスポーツ等で小小連携事業がありました。どうしても鳴鹿小だけの小さな集団でやっていると、内向きで周りのことがわからないところがあるので、もっと交流があるとよいと思います。
〇来年度は、陸上競技大会や音楽会などを行う予定です。

〇スキー教室についてはどう思いますか。
（大谷鳴鹿明章スポーツ少年団）
・指導者として参加しましたが、子供たちにとっては、大事な行事だと思います。自信がなかった子が、最後には楽しかったと言ってくれました。そういった成功体験を積ませることが大事だと思います。
（酒井鳴鹿地区まちづくり協議会すこやか元気部会委員長）
・スキーは大人になってから始めたのですが、小学校の時に滑れるようになるともっと違ったのかもしれません。
（辰川センター長）
・雪国の福井、ここでしかできないことなので続けてほしいと思います。それによって福井に愛着を持ってもらいたいと思います。
〇スキー教室がほかの学校でなくなっている理由として、経費がかかるということ、けがをした場合の損害賠償問題、指導者不足などがあげられます。
（大谷ＰＴＡ副会長）
・子供はスキー教室に行って、楽しかったと言っていました。家族では行かないので、スキーに連れて行ってくれとせがまれました。
（新宅鳴鹿地区女性の会会長）
・私は運動音痴なので、小さいときにもっとスキーなどに触れていたら、もっと運動ができていたかもしれません。ただ、経費などの問題があるので、簡単に賛成とは言えません。積み立てをするなどの方法も考えられます。

（酒井鳴鹿地区まちづくり協議会すこやか元気部会委員長）
・発表やあいさつの声が小さくなっているのはどういう理由からですか。
〇コロナ感染予防のため、声を出さない指導からきているものだと思います。でも最近は児童玄関前でのあいさつの声は大きくなっていると思います。

（辰川センター長）
・読書の時間が少ないというのがありますが、読書の楽しさを教えることが大切だと思います。
（下川青少年育成坂井市民会議鳴鹿支部長）
・読書については、毎年問題にあがる永遠の課題だと思います。最近は、読書よりゲームにいってしまう傾向があると思います。歴史のマンガ本のような読みやすいものからきっかけをつくることが大切だと思います。
（新宅鳴鹿地区女性の会会長）
・子どもによっても偏りがあって、上の子は図鑑をよく読んでいます。歴史の登場人物の本がたくさんあるといいと思います。
（酒井鳴鹿地区まちづくり協議会すこやか元気部会委員長）
・色々なジャンルの本を決めて、読ませる事が大切だと思います。
（大谷鳴鹿明章スポーツ少年団）
・読書をするきっかけが大切だと思います。インプットだけでなく、読んだ本について他の児童にこの場面が良かった等のプレゼンテーションをしてアウトプットすることが大切だと思います。
（下川青少年育成坂井市民会議鳴鹿支部長）
・テーマを決めて読ませるなどしかけが必要だと思います。
（大谷ＰＴＡ副会長）
・地域で進める体験事業では、昔の鳴鹿地区の事を知ってる人に話をしてもらったり、鳴鹿村史という本には鳴鹿大堰など鳴鹿の歴史について書いてある本があるので、活用するとよいと思います。
（酒井鳴鹿地区まちづくり協議会すこやか元気部会委員長）
・鳴鹿大堰から水をとりくむようになって、昔は水によるいざこざがあったり、藩同士の争いがあった。地域のいろいろな歴史を知る事が、地域に愛着を持ち、地域を大切にする事につながるのだと思う。

★学校改善に向けてのご意見・ご要望
（田中鳴鹿幼保園長）
・いつもお声を頂き、ありがとうございます。次年度は、幼保園へも来ていただけるような活動も計画できたら思っています。
　可能であれば、避難訓練（水害）に、参加させていただけると有り難く思います。もしもの場合の避難所が小学校となりますので、階段を登って避難を子どもたちにも経験させることができればと考えています。
　４月から１２名がお世話になります。大変なこともあるかとおもいますが移行支援等させて頂きたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

令和４年度　坂井市立鳴鹿小学校　まほろば協議会委員

No.	氏　　名	役　　職	住　所
1	辰川　勇一	鳴鹿コミュニティセンター長	東二ツ屋
2	内川　幸雄	鳴鹿地区区長会　会長	下久米田
3	酒井　究	鳴鹿地区まちづくり協議会すこやか元気部会委員長	上金屋
4	下川　健一郎	青少年育成坂井市民会議鳴鹿支部長	上金屋
5	新宅　藤志美	鳴鹿地区女性の会　会長	楽間
6	大谷　剛央	鳴鹿明章サッカースポーツ少年団　監督	東二ツ屋
7	田中　幹惠	鳴鹿幼保園長	上金屋
8	古俵　孝明	愛育会会長	新鳴鹿
9	大谷　武宏	愛育会副会長	新鳴鹿
10	山田　俊行	鳴鹿小学校長	楽間
11	市岡　幸惠	鳴鹿小学校教頭	楽間
12	山田　勉	鳴鹿小学校教務主任	楽間

鳴鹿小学校

校長室だより

第１９号　令和５年３月１日（水）

「学校評価」

＊学校評価＝スクールプランの取組に基づいた評価を行い、１年間の取組の検証と改善につなげていきます。

…アンケートのご協力ありがとうございました。

本校では、「心もからだも健康で、すすんで学ぶ、心豊かな児童を育てる」という教育目標を掲げ、スクールプランに基づいて、１年間教育活動に取り組んでまいりました。

特に「確かな学力」の定着をめざして、知的好奇心あふれる、主体的、対話的で深い学びの授業づくりに努めるとともに、「鳴鹿っ子授業の８つの約束」を常に意識付けを図りながら学習習慣を身につけさせてきました。また、「豊かな人間性」の育成をめざして、信頼し合える温かい学級の中でお互いを尊重し合い、協働することを通して豊かな情操と道徳心を培うことを大切にしてきました。「健やかな体」の育成をめざして、遊びと運動を奨励し、パワーアップタイムを通して体力づくりを進めてまいりました。さらに、規則正しい生活習慣を身につけさせ、健康・安全に対する意識を向上させてきました。

こうした実践を通して子どもたちに学ぶことの楽しさを実感させ、一人一人の資質・能力を伸ばしてきましたが、教育目標を達成するためには、家庭や地域の方々、さまざまな立場から子どもたちに関わる全ての方々のご協力が欠かせませんでした。皆様のおかげをもちまして、今年度１年間、地域の中で本当に数多くの体験活動を実施させていただき、保護者の皆様、地域の皆様には多大なるご理解、ご協力を賜りましたこと、心より厚くお礼申し上げます。皆様からいただきました「学校評価」をもとに、今年度の学校教育活動、教育課程を振り返り、来年度の子どもたちのさらなる成長につなげていく所存です。アンケートのご協力ありがとうございました。

学校評価結果より

児童・保護者回答を抜粋して簡単にお知らせします。

＜凡例：◎目標値より上　○おおよそ目標値　△目標値より下＞

【確かな学力の確立】

◎「鳴鹿っ子授業の８つの約束」を守れた…児童９３％　（目標値８５％）
◎毎日家庭学習に取り組んだ…児童９８％　（目標値９０％）
◎授業がよくわかった…児童９４％　（目標値９０％）
◎読書が好きだ…児童８４％　（目標値７５％）

【豊かな人間性の育成】

○相手のことを考え思いやりのある言動ができた…児童８４％　（目標値８５％）
○口を閉じて一生懸命掃除に取り組んだ…児童８９％　（目標値９０％）
◎挨拶、返事、丁寧な言葉遣いができた…児童９４％　（目標値９０％）
○安心して自分の考えを伝えることができた…児童８７％　（目標値８５％）

【健やかな体の育成】

◎パワーアップタイムのマラソンでは目標周回を走った…児童９６％　（目標値８０％）
◎朝の活動前や昼休みに運動することができた…児童８８％　（目標値８０％）

○早寝早起きができた…児童７８％　（目標値８０％）
○ﾉｰﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｰ、ｽﾏｰﾄﾙｰﾙを守った…児童７９％　（目標値８０％）

【家庭・地域との連携】

◎鳴鹿地区、鳴鹿小学校が好きだ…児童９４％　（目標値９０％）
△ﾉｰﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｰ、ｽﾏｰﾄﾙｰﾙを守れていた…保護者６２％　（目標値７０％）
◎学校の交通安全指導、防災・防犯教育や危機管理に満足している…保護者 98%（目標値 90%）

【その他のご意見と回答】

・ノーメディアデーを設けるのは賛成だが、曜日の決め方は、家庭ごとに事情が違うので、家庭ごとに設けるようにしてほしい。　*･･･曜日の決め方は、家庭に任せるようにします。*
・靴下の色を、黒や紺も認めてほしい。　*･･･丸岡南中学校と統一して、白もしくは黒とします。ただし、行事（式）の際は白とします。*

第3回まほろば協議会

＊家庭・地域・学校協議会＝愛育会２名、地域の方７名、学校３名で構成されています。

【第３回まほろば協議会（２月２２日開催）では次のようなご意見をいただきました】

＜体験・交流行事について＞

・３年生の豆腐づくり体験はどういった経緯で行われたのか。
　→これまでも３年生の国語の学習「すがたをかえる大豆」にあわせて、醤油づくりや味噌づくりの体験を行ってきた。今年は坂井市から、地元企業との連携を趣旨とした体験推進事業の予算が付いたため、それを活用して行った。
・小小連携で行われた６年生の発表のような他校との交流行事は、小規模校の児童にとっては、自己アピールができる良い機会なので、そういう機会がたくさんあるといい。

＜スキー教室について（指導者不足、費用面や安全面での課題について）＞

・子ども達はとても楽しみにしている行事である。普段連れて行けない家庭にとっては、学校で連れて行ってもらえるのはありがたい。
・子どものうちに、いろいろな経験をさせることは大事なことであり、楽しかったという成功体験が大事なことである。
・保護者の費用負担は心配だが、鳴鹿だから、福井だからできることなので続けてほしい。
・他校でスキー教室が無くなった話は聞くが、無くなってうれしいという声は聞かない。

＜読書について＞

・家庭での読書については、これまでも数値は低い。何十年も変わらない。好きな子は好きなので、読書の楽しさに触れさせる手立てを考えたらどうか。
・家で読んでいる本に偏りがあるように感じる。いろいろなジャンルの本を読んでもらいたい。学校で貸し出すときにテーマを決めて貸し出したり、読書カードにジャンルを記入する欄を設けたりすると良いのではないか。
・読書カードを書くことが目的になって、ちゃんと読まずに書く子もいる。読んだ本の面白さをアウトプットさせる機会をつくってはどうか。
・活字になれることは大事なことなので、ぜひ続けてほしい。

＜郷土愛について＞

・郷土に愛着をもってもらうことは、将来の鳴鹿をつくることにつながる。
・地域の歴史を知るには、「鳴鹿村史」という本がある。「鳴鹿大関」に関する本もあるので、是非活用してほしい。

→貴重なご意見ありがとうございました。学校としましても真摯に受け止め、対応させていただきます。ご協力本当にありがとうございました。